

中項目	3 我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与
-----	---

事業名	(1) 収蔵品等に関する調査研究成果の発信								
担当者	担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	出版企画室長 浅見龍介					
実績・成果	<p>定期刊行物（研究誌『MUSEUM』・紀要・図版目録・修理報告書・法隆寺献納宝物調査概報・研究図録）6件、特別展図録（平城遷都1300年記念『国宝 薬師寺展』等）・特集陳列印刷物（『六波羅蜜寺の仏像』等）11件、その他（『東京国立博物館日本美術50選』の中国語版・韓国語版）2件を刊行した。これらの出版物により、国内外に広く当館の収蔵品に関する調査研究成果を発信することができた。</p>								
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>『法隆寺献納宝物調査概報XXIX』は、国宝聖徳太子絵伝10面のうち、第3・4面についての詳細な調査報告である。彩色の剥落等により図様が不明瞭であったが、拡大写真を多用し、解説を付すことによって描かれた内容が把握できるようになった。聖徳太子研究に寄与するところが大きい。</li> <li>研究図録『骨角器』は、当館所蔵の骨角器全点の図面と論文を収めたもので、この分野の研究の最新成果を示すものである。</li> <li>『日本美術50選』中国語版、韓国語版は、海外からの観覧者に対応するため、新たに作成したものである。</li> <li>『東京国立博物館紀要』は、これまで未紹介の江戸時代の大小絵巻に関する研究論文（田沢裕賀）、中世染織品の中でも特色ある辻が花に関する研究論文（小山弓弦葉）を収録する。当館所蔵品の詳細な研究報告は、研究員の責務を果たすものである。</li> <li>特集陳列の図録のうち『六波羅蜜寺の仏像』は、3000部を売り上げ、大きな反響を呼んだ。展示のリーフレットは5000部を無償で配布したが、ほぼ残部がなくなるほど多数の要望があり、多くの来館者に研究成果を発信することができた。</li> <li>東京国立博物館創立150年（平成34年）を視野にすえ、今年度から150年史編纂プロジェクトを立ち上げた。『MUSEUM』に館史に関する論文、報告も積極的に掲載することとし、本年度には1本の論文を掲出した。</li> </ul>								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
	定期刊行物	6件	6件	A		4	5	5	6
	特別展図録・特集陳列印刷物	11件	8件	A		8	4	5	11
	その他	2件	3件	B		2	—	1	2
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	収蔵品等に関する調査研究成果を研究紀要、学術雑誌、展覧会に関わる刊行物、学会及びインターネット等を活用して広く発信する。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。			順調に成果を上げている。						





特集陳列「自在置物」図録

中項目	3 我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与								
事業名	(1) 収蔵品等に関する調査研究成果の発信								
担当者	担当部課	学芸部	事業責任者	企画室長 赤尾栄慶					
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「平安仏教とその造形」に関しては、シンポジウム「撰関期にみる美術の諸相」を開催(6/16)</li> <li>・ 国際シンポジウム「輸出漆器が語る東西交流の400年」を開催</li> <li>・ 研究紀要「学叢」第30号を刊行した</li> </ul>								
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「平安仏教とその造形」に関しては、シンポジウム「撰関期にみる美術の諸相」を開催(6/16)し、79人が参加し、活発な討論が行われた。</li> <li>・平成20年度の国際シンポジウムは、11月8日に京都国立国際会館で開催し、3名が研究発表を行い、4名でパネル・ディスカッションが行われた。190人が参加し、活発な討論がなされた。</li> </ul>								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
	国際シンポジウム参加人数	190人	—			261人	152人	285人	190人
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	収蔵品等に関する調査研究成果を研究紀要、学術雑誌、展覧会に関わる刊行物、学会及びインターネット等を活用して広く発信する。また、各種セミナー、シンポジウムを開催する。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調に成果を上げている。				



「国際シンポジウム」

中項目	3 我が国における博物館ナショナルセンターとしての博物館活動全体の活性化に寄与									
事業名	(1) 収蔵品等に関する調査研究成果の発信									
担当者	担当部課	学芸部企画室	事業責任者	企画室長 稲本泰生						
実績・成果	<p>『天馬ーシルクロードを翔る夢の馬』(特別展図録)、『国宝 法隆寺金堂展』(特別展図録)、『建築を表現するー弥生時代から平安時代まで』(特別陳列図録)、『西国三十三所 観音霊場の祈りと美』(特別展図録)、『第60回正倉院展』(特別展図録)、『The 60<sup>th</sup> Annual EXHIBITION OF SHOSO-IN TREASURES』(特別展英語版図録)、『おん祭と春日信仰の美術』(特別陳列図録)、以上7冊の展覧会目録を刊行した(以上刊行物は全て作品解説付き、展覧会担当研究員の総論や各論を掲載)。また毎年行われる特別陳列の図録『お水取り』は完売につき、補訂を行った上で増刷刊行した。さらに60回の正倉院展の歩みを集成した「正倉院展60回の歩み」を編集し、刊行した。</p> <p>正倉院学術シンポジウム「正倉院展60回 その歴史と未来」(11月3日、奈良県新公会堂、参加者数177名)を開催し、過去3回のシンポジウムの記録と成果を集成した当館編「正倉院宝物に学ぶ」(思文閣出版発行)を刊行した。</p> <p>前年度に引き続き、ホームページ上で研究紀要『鹿園雑集』のバックナンバーを公開し、また文化財保存修理所で修理した文化財を写真パネル等で展示した。さらに従来からの読売新聞「鹿園観照ー奈良国立博物館で見る名宝」に加えて新たに産経新聞に「祈りの美」の連載を開始し、展示作品について定期的な紹介を行った。</p>									
補足事項	<p>① 特別展・特別陳列等の開催に伴って展覧会目録等を刊行し、作品解説を付すにとどまらず、展覧会の企画・開催によって得た最新の調査研究の成果を発表することによって、充実した内容であるとの評価を多数得た。</p> <p>② 正倉院学術シンポジウムでは、同展が第60回を迎えたことに因むテーマ設定を行って第一級で活躍する研究者を招聘して研究発表・討論を一般公開で行い、近代史上に占める正倉院宝物及び正倉院展の意味を深く検討し、広く示すことができた。</p> <p>③ 正倉院展が第60回を迎えたことを記念して「正倉院展60回の歩み」「正倉院宝物に学ぶ」の2冊の書物を刊行し、既に同展の歴史に関する基礎資料及び正倉院宝物に関する最新の調査研究の水準を集成・発信するとともに、当館で同展がかくも長く開催され続けてきたことの意義を広くアピールすることができた。</p> <p>④ 新聞紙上に展示品・所蔵品についての解説や研究成果の発表を行い、当館の活動を広く一般にアピールできた。</p>						 <p style="text-align: center;">正倉院学術シンポジウム風景</p>			
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20	
年度実績評価総括	S <b>Ⓐ</b> B C F (S、Fの理由)									
中期計画記載事項	収蔵品等に関する調査研究の成果を研究紀要、学術雑誌、展覧会に関わる刊行物、学会及びインターネット等を活用して広く発信する。また、各種セミナー、シンポジウムを開催する。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調に成果を上げている。					

中項目	3 我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与										
事業名	(1) 収蔵品等に関する調査研究成果の発信										
担当者	担当部課	博物館科学課 文化財課 交流課	事業責任者	保存修復室長 藤田 励夫 研究員 荒木和憲 主任主事 久保田資子							
実績・成果	①特集陳列「博物館と文化財修理—九州国立博物館文化財保存修復施設開設3周年記念—」の開催と図録刊行。展覧会は5月13日から6月22日。 ②研究紀要『東風西声』第4号を刊行（3月発行）。 ③九州国立博物館開館3周年を記念して、韓国国立中央博物館、韓国国立扶餘博物館から専門家を招き、古代の大宰府、そして倭に影響を与えた百済をテーマにしたシンポジウムを開催した。										
補足事項	①文化財修理について、具体的に一般の方々へ対して情報を発信することができた。図録は文化財修復関係の学生等の教材としても活用できる。 ③シンポジウムの開催に合わせて友好館である韓国国立公州博物館から研究員を招聘し、交流促進を図った。									シンポジウム開催風景	
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20		
	国際シンポジウム参加者回数	385人 1回	— —			1,700 6	640 3	586 4	385 1		
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)										
中期計画記載事項	収蔵品等に関する調査研究の成果を研究紀要、学術雑誌、展覧会に関わる刊行物、学会及びインターネット等を活用して広く発信する。また、各種セミナー、シンポジウムを開催する。										
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調に成果を上げている。						

中項目	3 我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与								
事業名	(2) 海外研究者の招聘・海外への研究員派遣								
担当者	担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	国際交流室長 鬼頭智美					
実績・成果	<p>欧米、中国、韓国より計15名の研究者を招へいし、当館研究員延べ25名を欧州、北米、中国、韓国等へ派遣して、展覧会事業の推進および学術交流を行った。これらの交流活動により、欧米・アジア主要館との連携を強化、また当館収蔵品とその保存・活用についての意見交換を行った。</p> <p>また、日中韓国立博物館館長会議を開催、三館の協力体制を確認、連携を深めた。さらに、中国の故宮博物院との協力について覚書を締結し、収蔵品の保存、活用、また相互貸借についての協力体制を明文化した。</p> <p>スリランカより計4名の研修を受け入れた。</p>								
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・欧米およびアジア(特に中国・韓国)の主要館との連携は順調に強化されている。</li> <li>・定期学術交流として、中国・故宮博物院が加わり、中国との研究交流の基点となることが期待される。</li> <li>・保存分野においても専門家を招へいし、セミナーを開催、中国における文化財保存の現状についてタイムリーな情報を得ることができた。</li> <li>・欧米の主要館が構成する国際展覧会オーガナイザー会議(IEO)に運営委員会メンバーとしてアジアで唯一参加し、欧米各館に対して、アジアの博物館美術館の現状理解と、ネットワークの拡充につとめた。</li> <li>・スリランカ展開催に合わせて、コロombo国立博物館及びスリランカ考古局から派遣された4名の研究員に対し、保存修復、収蔵品管理、教育普及、危機管理などに関する研修を行い、アジア地域の博物館交流の一助とした。</li> </ul>								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年 変化	17	18	19	20
	海外研究者の招聘	15名	6名	A		13	9	10	15
	海外への研究者派遣	25名	6名	A		6	14	22	25
	海外研修生の受入	4名	2名	A		1	2	2	4
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与 海外の優れた研究者を招聘し国際シンポジウムを開催するなど博物館活動に対する示唆が得られるよう努める。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。								



日中韓国立博物館館長会議(20.10月)

中項目	3 我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与
-----	---

事業名	(2) 海外研究者の招聘								
担当者	担当部課	学芸部	事業責任者	企画室長 赤尾栄慶					
実績・成果	海外からの研究者の招聘 9名 海外への研究員の派遣 18名 国際会議への派遣 4名								
補足事項	平成20年度に開催した国際シンポジウムでは、チェコ・プラハ工芸大学フィリップ・スホメ副学長、オランダ・ライデン大学のシンティア・フィアレイ研究員をお迎えした。 また、平成21年度開催予定の特別展覧会「シルクロード 文字を辿ってーロシア探検隊収集の文物ー」に関する打ち合わせのため、ロシア科学アカデミー東洋写本研究所 イリナ・ポポヴァ所長を招へいた。								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
	海外からの研究者招聘 海外への研究員の派遣	9人 18人	5人程度 1~2人	A A		13人 18人	9人 15人	7人 21人	9人 18人
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	海外の優れた研究者を招聘し国際シンポジウムを開催するなど博物館活動に対する示唆が得られるように努める。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調に成果を上げている。				

中項目	3 我が国における博物館ナショナルセンターとしての博物館活動全体の活性化に寄与								
事業名	(2)海外研究者の招聘								
担当者	担当部課	学芸部企画室	事業責任者	企画室長 稲本泰生					
実績・成果	<p>国際交流協定を結んでいる四機関との間で研究員の招聘及び派遣を行い、文化財の調査研究を実施した。内訳は中国・上海博物館（当館からは3名を10日間派遣）、中国国家博物館（研究員2名を1ヶ月間招聘、当館から研究員2名を約1ヶ月間派遣）、中国・河南博物院（研究員2名を1ヶ月間招聘）、韓国国立慶州博物館（研究員1名を1ヶ月間招聘、当館から研究員1名を3週間派遣）である。</p> <p>このほか文化庁「外国人芸術家招へい事業」により中国・西安碑林博物館長・趙力光氏を、同「在外日本古美術品に係る博物館・美術館研究協力事業」によりメトロポリタン美術館から研究員1名を、同「アジア諸国博物館・美術館研究協力事業」により韓国・国立中央博物館から研究員1名、中国・陝西歴史博物館から研究員1名を招聘し、国内各地で文化財調査、博物館等施設の視察を行っていただき、当館研究員との間で情報交換等を行った。</p>								
補足事項	<p>① 国際交流協定を結ぶ4館との間の交流では、将来の共同調査や展覧会開催に向けた実りある調査・情報交換を行うことができた。</p> <p>② 文化庁主催の各種招聘事業においても、諸外国の主要博物館との友好関係を強化し、当館の今後の調査研究・展示活動を充実させる上で有効な成果をあげることができた。</p> <p>③ 当館からの研究員派遣では、派遣先で文化財調査を行うことによって、仏教美術に関する当館の調査研究・展示活動を広くアジア的視野に立って展開する上で、貴重な情報の収集を行うことができた。</p> <p>④ 中国・隋唐時代の主要文物を多数所蔵する西安碑林博物館から館長を、また陝西歴史博物館から仏教造像を専門とする研究員を招聘し、平成22年度に開催を予定している平城遷都1300年記念大遣唐使展に対する助力を得る上で、特に有意義な交流を行うことができた。</p>								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
	海外の研究者招聘 職員の海外への派遣	9人 6人	6人程度 6人程度	A A		10 13	10 16	9 6	9 6
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	海外の優れた研究者を招聘し国際シンポジウムを開催するなど博物館活動に対する示唆が得られるよう努める。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調に成果を上げている。				



中項目	3 我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与								
事業名	(2) 海外研究者の招へい								
担当者	担当部課	総務課 交流課	事業責任者	総務課長 主任主事	樋口理央 久保田資子				
実績・成果	<p>○海外研究者の招へい 18人(目標5人程度)</p> <p>○海外への研究員派遣</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「文化財保存国際交流セミナー『漆工品の保存修理』における講演</li> <li>・JICA 草の根技術協力事業「文化財の保存と地域の活性化」研修のため</li> <li>・「第2回文化財保存国際セミナー」</li> <li>・平成20年度外国人芸術家・文化財専門家招へい事業に係る招へい</li> <li>・日中共同遼文化研究に関する研究員の招へい</li> <li>・九州国立博物館保存修復事業等に係る協力のため</li> <li>・九州国立博物館開館3周年記念国際シンポジウム「百済、倭そして大宰府」講演</li> </ul>								
補足事項	<p>○JICA草の根技術協力事業</p> <p>平成19年度(2007年)からは、3年間の予定で独立行政法人国際協力機構(JICA)と協力してタイ王国との交流事業を開始した。</p> <p>本事業は、日タイ間で文化財の保存修復と地域活性化へ向けての利活用に係る専門家派遣及び研修員受け入れを行うことにより、文化財の保存活用の中核となる博物館の整備や研究員の博物館運営・文化財保存・教育普及等の意識向上を図り、もって、文化財を利活用した地域の振興に寄与することを目的としている。</p>								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年 変化	17	18	19	20
	海外の研究者招へい 海外博物館等への派遣	18人 35人	5人程度 1人程度	A A		10 40	17 32	38 44	18 35
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	海外の優れた研究者を招聘し国際シンポジウムを開催するなど博物館活動に対する示唆が得られるよう努める。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調に成果を上げている。				



研修の様子




中項目		3 我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与							
事業名	(3) 博物館等関係者や修理技術関係者等を対象とした研修プログラムの検討、実施								
担当者	担当部課	学芸研究部保存修復課	事業責任者	保存修復課長 神庭信幸					
実績・成果	<p>1. 特定非営利活動法人文化財保存支援機構が主催する専門家セミナーに東京国立博物館が共催し、東京国立博物館を会場として平成20年8月3日(日)～14日(木)の10日間、「文化財保存修復専門家養成実践セミナー」を開催した。東京国立博物館は講師・プログラムの選定、およびセミナー会場としての修理施設の提供を行った。本セミナーの対象は、社会で活動している文化財保存修復専門家及び専門家を目指す学生である。内容としては、国内外で活躍できる高度な能力を持つ専門家を育成するために、基礎能力の格段の向上を目指すものであり、既に現場で活躍している講師陣による実践セミナーである。2ヵ年で1クールであるため、平成20年及び21年で1クールを終了する。</p> <p>2. 文化財保存修復学会との共催により、特集陳列「東京国立博物館コレクションの保存と修理」展にちなみ修理技術者を対象にした研修会を3月21日(土)に開催。2件の修理事例の発表及び特集陳列の解説を実施した。</p> <p>3. 大学院生のインターンを11月4日(月)～14日(金)間での間、3名受け入れた。</p>								
補足事項	<p>1. セミナーカリキュラムは5テーマに沿って配分(51時間)</p> <p>①「保存修復事業における調査診断法」 無機分析(3時間)、工学調査(3時間)、模写模造(3時間)</p> <p>②「環境保全概論」 温湿度(3時間)、生物生息(3時間)、</p> <p>③基礎修理設計 東洋絵画(3時間)、油彩画(3時間)、彫刻(3時間)、 染織(3時間)、考古(3時間)、石材(3時間)</p> <p>④基礎材料論 紙・布(3時間)、金属(3時間)</p> <p>⑤特講 倫理(1.5時間)、保護法(1.5時間)、臨床保存(3時間)、 対症修理(1.5時間)</p> <p>2. 「東京国立博物館コレクションの保存と修理」にちなんだ修理技術者研修会。「梅樹禽鳥図屏風の修理」及び「コレクションの修理方針の決定と修理技術者」に関する発表と討議。特集陳列「東京国立博物館コレクションの保存と修理」展の解説を実施した。</p> <p>3. 東京藝術大学大学院美術研究科文化財保存学1名 東京学芸大学大学院教育学研究科文化遺産教育1名 京都工芸繊維大学大学院先端ファイブロ科学1名</p>								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					中期計画に対して、順調に成果を上げている。				



三輪九博館長による講義風景


中項目	3 我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与								
事業名	(3) 博物館等関係者や修理技術関係者等を対象とした研修プログラムの検討、実施								
担当者	担当部課	学芸部	事業責任者	保存修理指導室長 村上 隆					
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月1回文化財保存修理所内工房を当館研究員が巡回し、修理技術者に指導・助言を行った。また、2か月に1回修理技術者と当館との定例会議を開催した。</li> <li>当館にて開催の特別展覧会において修理技術者に対する研修会を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>参加者 「暁斎」展 62人</li> <li>「japan 蒔絵」展 38人</li> <li>「京都御所ゆかりの至宝」展 44人</li> </ul> </li> </ul>								
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化財保存修理所巡回によって、修理技術者へ専門的な立場から指導・助言を行うことで双方の見識にプラスとなった。</li> </ul>								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
			—	—					
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	博物館等関係者や修理技術関係者等を対象とした研修プログラムについて検討、実施する。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調に成果を上げている。				

中項目	3 我が国における博物館ナショナルセンターとしての博物館活動全体の活性化に寄与
-----	---

事業名	(3)博物館等関係者や修理技術関係者等を対象とした研修プログラムの検討、実施								
担当者	担当部課	学芸部保存修理指導室	事業責任者	上席研究員 鈴木 喜博					
実績・成果	<p>○修理所巡回（毎月1回）を実施した。館長、副館長および学芸部研究員らが修理所の各三工房を見学し、修理途中の文化財の修理状況を視察し、修理中に分かった新知見を通して新たに文化財としての価値を高めるようなディスカッションを技術者で行い、それによって文化財に対する深い理解と相互の交流・研鑽に努めた。</p> <p>○平成21年3月19日（木） 午後5時から6時30分。当館講堂。 北村昭齋工房の漆工品修理について、近年の修理実績のなかから、琉球および中国明時代の漆工品修理について、修理品の概要、修理中の調査および新知見、修理方針、修理技術などについて、スライドを使用して発表し、学芸部研究員、修理所工房のスタッフとディスカッションを行い、文化財修理にたいする多様な価値観および思想について見識を深めた。</p>								
補足事項	<p>○平成21年3月11日（水）文化財保存修理所の特別見学を開催し、一般の方々に対する文化財修理の認識について深めてもらう機会をつくった。これによって文化財修理所の各工房においても、修理の新情報についての取り組み方や、文化財修理の作業内容の公開の仕方を学習し、開かれた修理を志向する意識を育むように努めた。募集定員の10倍以上の応募があり非常に盛況であった。</p> <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">  <p style="text-align: center;">修理所公開チラシ</p> </div>								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
年度実績評価総括	S <b>(A)</b> B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	博物館等関係者や修理技術関係者等を対象とした研修プログラムについて検討、実施する。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。								

中項目	3 我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与										
事業名	(3) 博物館等関係者や修理技術関係者等を対象とした研修プログラムの検討、実施										
担当者	担当部課	博物館科学課	事業責任者	課長	本田光子①②④	特任研究員	村田忠繁②③	保存修復室長	藤田励夫②③④	研究員	志賀智史②③④
実績・成果	<p>① 市民協同型 IPM 活動に関する研究会 第1～4回 7月10日、8月23日、10月26日、2月8日 参加者数のべ230名</p> <p>② 九州国立博物館文化財保存国際交流セミナー 第1回「漆工品の保存修理」5月16日 参加者34名 第2回「アジアにおける文化財の保存修復」9月29日 参加者56名 第3回「装こう技術による紙文化財の保存修復」11月4～7日参加者のべ58名</p> <p>③ a 文化財保存修復研修（地元大学の文化財保存技術専攻学生7名対象）8月4～8日 b 古文書保存基礎講座（地元博物館文化財関係者32名対象）1月20日、27日</p> <p>④ 漆工品の取り扱い講座（当館職員及び関係者）2月2日 参加者20名</p>										
補足事項	<p>① 昨年度5回の研究会を開催したのを受けて、今年度は4回の研究会を開いた。また、当館で開催された文化財保存修復学会第30回記念大会に併せて、市民アカデミー、バックヤードツアーを開催し、のべ413名の参加者を迎えた。</p> <p>② 第1回は、ウクライナの専門家を招聘し、日本の重要無形文化財保持者らとともに漆工品の保存修復のセミナーを開催した。第2回は、タイ、大韓民国から保存科学の専門家を招聘し、各国の文化財保存の現状を学ぶセミナーを開催した。第3回は、大韓民国で活動する装飾分野の修復技術者2名を招聘し、研究員と修復技術者、修復技術者同士の研究面、技術面での交流をおこない、その活動の一端を講演会として市民に公開した。</p> <p>③ a 地元3大学の学生を対象に装こう技術の研修を実施した。b 当館での「寒糊炊き」とともに経験し、初級の装こう技術の研修を2会場で行った。</p> <p>④ 漆工品の取り扱いとクリーニング方法についての講座を開催した。</p>						 <p>②九州国立博物館文化財保存国際交流セミナー 第3回「装こう技術による紙文化財の保存修復」</p>  <p>③a 文化財保存修復研修</p>				
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20		
	研究会等開催回数	10回	8回	A		—	—	11	10		
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)										
中期計画記載事項	博物館等関係者や修理技術関係者等を対象とした研修プログラムについて検討、実施する。										
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。										


中項目	3 我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与
-----	---

事業名	(4) 公私立の博物館等への貸与の推進								
担当者	担当部課	学芸研究部列品管理課	事業責任者	列品管理課長 谷 豊信					
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内の公立・私立の博物館が実施した特別展および平常展示に、列品および寄託品を多数貸与した。</li> <li>考古資料相互貸借事業は、二つの博物館と協力して実施した。</li> <li>長期貸与のなかで特筆すべきは、17年度以来継続している長崎歴史文化博物館に対するキリシタン関係遺物貸与である。同館への貸与品と、九州国立博物館への長期管理換品、そして当館での展示品とがそれぞれ一定の質を保つよう、調整している。</li> </ul>								
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>貸与に当たっては、先方の施設および責任体制の確認、作品の保存状況の確認、先方の事前調査への対応、作品が輸送・展示に耐えるかの判定、希望が重複した場合の調整、引渡し時および返却時の状況確認を行った。</li> <li>考古相互貸借事業の成果は以下の通り。福島県埋蔵文化財センター白河館には考古資料42件を貸与した。当館は34件を借用し、特集陳列「古墳時代金属器の修理・復原」を開催した。長野県立歴史館には9件（内、重文1件）を貸与した。当館は29件を借用し、特集陳列「長野の弥生土器・土師器・須恵器」を開催した。</li> </ul>								
					<p>特集陳列 「長野の弥生土器・土師器・須恵器」</p>				
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年 変化	17	18	19	20
	貸与件数	1,125件	—	—		1,337	1,329	1,302	1,125
	うち国内の貸与件数	1,012件	1,000件	—					
	うち海外の貸与件数	113件	—	—					
	貸与先施設数	135件	—	—			142		135
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	<p>収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、公私立の博物館に対し、展示等の充実に寄与するための貸与を促進する。収蔵品の貸与については、貸与に関する情報を公開するなど具体的措置を講ずることとする。</p>								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調に成果を上げている。				

中項目	3 我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与
-----	---

事業名	(4) 公私立の博物館等への貸与の推進								
担当者	担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長	若杉準治				
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・45機関に対し246件の貸与を行った。(うち海外1機関に対し1件) (館蔵品についての貸与件数)</li> <li>・特別観覧件数 902件</li> </ul>								
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公私立博物館、美術館からの要請により、当館の展示計画との調整を行ったうえで、積極的に収蔵品の貸与を行い、各博物館、美術館の展示の充実に寄与した。</li> <li>・「@KYOTOMUSE Digital Archives」(artize.net)を介したデジタル画像の提供事業を継続的に行っている。</li> </ul>								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
	貸与件数 うち海外への貸与件数	246件 1件	約120件 -	A -		230件 232件 8件	171件 3件	246件 1件	
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、公私立の博物館等に対し、展示等の充実に寄与するため貸与を推進する。収蔵品の貸与については、貸与に関する情報を公開するなど具体的措置を講ずることとする。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調に成果を上げている。				



中項目	3 我が国における博物館ナショナルセンターとしての博物館活動全体の活性化に寄与								
事業名	(4)公私立の博物館等への貸与の推進								
担当者	担当部課	学芸部列品室	事業責任者	岩田茂樹					
実績・成果	<p>・館蔵品と寄託品の貸出は、展覧会にして44件、展示会場にして47館（巡回展のため会場数の方が多い）、作品件数にして163件。</p> <p>貸与先内訳（のべ）          外国1館、国立8館、公立28館、私立9館 その他1館</p> <p>貸与作品内訳          館蔵品70件（絵画20件、彫刻10件、書跡3件、漆工3件、金工15件、染織3件、考古16件）          寄託品93件（絵画43件、彫刻17件、書跡6件、漆工3件、金工18件、染織2件、考古4件）</p>								
補足事項	<p>・目標値をクリアしており、順調に推移している。</p> <p>・たんに数的目標に到達することを第一義とするのではなく、展覧会の意義と作品の保存状態を慎重に検討しつつ貸し出しており、到達度は高いと考える。</p>						 <p>「薬師如来坐像」          韓国国立中央博物館          「統一新羅彫刻展」に貸与</p>		
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
	貸出件数	163件 件 件 件	100件 — — —	S — — —		147	161	137	163
年度実績評価総括	<p>⑤ A B C F          (S、Fの理由) 当初計画の貸出数をすでに1.5倍以上超えており、他館を通じて広く国内外の人々に優れた文化財を披露できたと思われるため。</p>								
中期計画記載事項	<p>収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、公私立の博物館等に対し、展示等の充実に寄与するため貸与を推進する。収蔵品の貸与については、貸与に関する情報を公開するなど具体的措置を講ずることとする。</p>								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調に成果を上げている。					



中項目	3 我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与
-----	---

事業名	(4) 公私立の博物館等への貸与の推進								
担当者	担当部課	文化財課	事業責任者	研究員 荒木和憲					
実績・成果	国内28機関・海外2機関に所蔵品および借用品(東京国立博物館からの長期管理換品を含む)を貸与した。								
補足事項	<p>○国内機関への貸与については、文化庁・京都国立博物館・奈良国立文化財研究所のほか、九州・沖縄管内の公私博物館・美術館、および九州・沖縄管外の公私博物館・美術館(栃木県立美術館・静岡県立美術館・たつの市埋蔵文化財センター・京都文化博物館・徳川美術館・サントリー美術館・大和文華館など)からの出品要請に協力し、国宝1件・重要文化財3件を含む所蔵品・借用品を貸与した。</p> <p>○海外機関への貸与については、韓国釜山市博物館特別展「韓国と日本」展および韓国国立古宮博物館特別展「仕立てと装いの芸術、装演」展への出品要請に協力し、重要文化財6件を含む所蔵品・借用品を貸与した。</p>								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	17	18	19	20	
	貸与件数 うち海外への貸与件数	51件 19件	— —	— —	経年 変化 47 0	116 1	127 18	51 19	
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、公私立の博物館等に対し、展示等の充実に寄与するため貸与を推進する。収蔵品の貸与については、貸与に関する情報を公開するなど具体的措置を講ずることとする。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。			順調に成果を上げている。						



国宝 栄花物語(当館蔵)  
京都文化博物館特別展  
「源氏物語千年紀展」出品

【書式A】

施設名 東京国立博物館

処理番号 3511

中項目	3 我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与								
事業名	(5) 公私立博物館等に対する援助・助言								
担当者	担当部課	学芸研究部	事業責任者	学芸研究部長 島谷 弘幸					
実績・成果	文化庁や地方公共団体等の文化財関係事業にて協力 (64 件) 文化財の展示にかかる指導助言 (18 件) 講演会やセミナー等における講演等での協力 (42 件) 作品の展示・保存環境についての調査・指導 (10 件)								
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国内・海外の博物館・美術館からの要望に応じ、展覧会での展示方法や作品調査にかかる指導・助言を行い、また講演会等における発表や講師での協力をした。</li> <li>・これにより各機関の展示企画を充実させ、調査研究活動に貢献するとともに、日本文化の紹介を通じて国際交流の発展にも寄与した。</li> </ul>								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
	公私立博物館・美術館への援助・助言	134 件	40 件	A		45	56	124	134
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、F の理由)								
中期計画記載事項	公立の博物館・美術館等が開催する展覧会に対する指導、助言等を行う。新規貸与館に対する環境調査は、東京文化財研究所と協力して指導助言を行う。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調に成果を上げている。					

【書式A】


施設名 京都国立博物館

処理番号 3512

中項目 3 我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与

事業名	(5) 公私立博物館等に対する援助・助言								
担当者	担当部課	学芸部	事業責任者	企画室長 赤尾栄慶					
実績・成果	文化財の展示、修理にかかる指導助言（20件） 講演会、セミナー等における講演等での協力（32件） 地方公共団体の文化財保護審議会等会議にて協力（34件） 文化財の調査にかかる指導助言（28件）								
補足事項									
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年 変化	17	18	19	20
	公私立博物館・美術館への援助・助言	114件	12件	A		44件	36件	81件	114件
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	公私立博物館等に対する援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等に努める。なお、援助・助言の実施については今期5年間の実績が前中期目標期間の実績を上回るよう努める。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調に成果を上げている。					

中項目	3 我が国における博物館ナショナルセンターとしての博物館活動全体の活性化に寄与								
事業名	(5) 公私立博物館に対する援助・助言								
担当者	担当部課	学芸部企画室	事業責任者	企画室長 稲本泰生					
実績・成果	<p>「国宝 鑑真和上展」(静岡県立美術館、20年7月12日～8月31日、同館・唐招提寺・静岡新聞社・静岡放送主催)、「法隆寺の名宝と聖徳太子の文化財展」(石川県立美術館、20年9月20日～10月24日、同館・法隆寺主催)、「石山寺の美 観音・紫式部・源氏物語」(明石会場＝明石市文化歴史博物館、20年4月5日～5月11日、同館・石山寺・神戸新聞社主催。弘前会場＝弘前市立博物館、同9月6日～10月5日、同館・石山寺・弘前市教育委員会・東奥日報社主催。岡崎会場＝岡崎市美術博物館、同10月12日～11月16日、同館・石山寺・中日新聞社主催。横浜会場＝そごう美術館、21年3月7日～29日、同館及び石山寺主催)において学術協力を行い、出陳作品の選定・集荷・陳列・保存・返却の助言ならびに補助、目録の編集協力等を行い、展覧会全般に関して協力援助を行った。</p> <p>韓国国立中央博物館で開催された「統一新羅彫刻特別展」(12月15日～3月1日)への館蔵品、寄託品の出陳に協力し、所蔵者への交渉、作品の輸送、展示などを行った。</p>								
補足事項	<p>1 「鑑真和上展」「法隆寺展」「石山寺展」への協力を通して、関西地区所在の仏教関連文化財の他地域における紹介・普及に、多大な貢献を果たすことができた。</p> <p>2 国立中央博物館への協力をおして日本の仏教美術の海外における紹介普及に貢献することができた。</p> <p>3 これら展覧会への協力を通して、特別展等、将来の当館の事業に対して協力を得る際に不可欠である唐招提寺、法隆寺及び石山寺及び韓国国立中央博物館との信頼関係を、より強固なものとすることができた。</p>								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
	公私立博物館・美術館への援助・助言	5件 件 件 件	5 — — —	A — — —		3	7	5	5
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	公私立博物館等に対する援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等に努める。なお、援助・助言の実施については今期5年間の実績が前中期目標期間の実績を上回るよう努める。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。								

中項目	3 我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与								
事業名	(5) 公私立博物館等に対する援助・助言								
担当者	担当部課	総務課	事業責任者	総務課長	樋口理央				
実績・成果	公私立博物館等で開催された研究集会および講演会において指導・助言を行った。								
補足事項	<p>当館研究員が指導・助言を行った主なものとしては、以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・熊本博物館館内研修に関する講師（熊本市立熊本博物館）</li> <li>・田熊石畑遺跡発掘の遺物（青銅器）取り上げに関する指導（宗像市教育委員会）</li> <li>・釜山博物館開館30周年記念国際交流展に伴う出品資料の輸送・開梱・展示に関する指導（大韓民国 釜山博物館）</li> <li>・石見銀山遺跡調査に関する指導（島根県教育庁）</li> <li>・福井県朝倉氏遺跡の遺跡整備全般と保存処理事業に関する指導（福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館）</li> </ul>				 <p>館長の講演風景</p>				
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
	公私立博物館・美術館等への援助・助言件数	47件	12件			46	57	38	47
年度実績評価総括	S <b>Ⓐ</b> B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	公私立博物館等に対する援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等に努める。なお、援助・助言の実施については今期5年間の実績が前中期目標期間の実績を上回るよう努める。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。			順調に成果を上げている。						